

品目	病害虫名	発生予報	病害虫名	発生予報
水稲	葉いもち	発生時期: 平年並 発生量: 平年並	イネドロオイムシ	発生量: 少
りんご	斑点落葉病	発生量: 多	キンモンホソガ	発生量: やや多
	モモシンクイガ	発生量: やや多	—	—
なし	黒星病	発生量: 平年並	アブラムシ類	発生量: 平年並
冬春 きゅうり	うどんこ病	発生量: 平年並	アザミウマ類	発生量: 平年並
	褐斑病	発生量: やや多	コナジラミ類	発生量: 平年並
	炭疽病	発生量: 平年並	ハダニ類	発生量: 平年並
	べと病	発生量: 平年並	—	—

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 適切な防護装備の着用を徹底しましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう
- ⑤ 農薬容器のラベルをよく読みましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

より詳しい内容は、下記ホームページでご確認ください。

宮城県病害虫防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>

次回、発生予報第4号の発行日は6月24日(月)の予定です。

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所 メルマガ

トップページ



登録フォーム

ー6月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:5月30日～6月4日

天候予報:仙台管区气象台6月6日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期 (発生開始期)	発生量
葉いもち	平年並 7月第1半旬(7/1～7/5)	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、残苗の放置筆率は平年よりやや低かった。また、発病した残苗は確認されなかった。(/ -)
- (2) 平均気温が19～25℃、曇りや雨が多いことが発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ +)、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予報されている。(± / ±)

病害虫名	発生時期	発生量
イネドロオウムシ	ー	少

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ -)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少くなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- 病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/miyagi>

(2) 葉いもち

- 本田でのいもち病の発生源となるため、補植終了後の苗は速やかに除去し、裏返す等、適正に処分する。
- 箱施用剤を使用していない場合は水面施用剤による予防防除を実施する。
- 予防防除を実施した場合でも、発病が見られた際は速やかに茎葉散布剤で防除する。
- BLASTAMによる葉いもちの感染好適条件の推定結果は、以下のHPを参照する。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>

(3) イネドロオウムシ

- 箱施用剤で防除を行った場合でも、要防除密度(下表)を参考に、必要に応じて茎葉散布剤による防除を実施する。

表 イネドロオウムシの防除時期(ふ化盛期)と要防除密度

防除時期(ふ化盛期)※平年値	要防除密度
6月第3半旬 (6月11～15日)	侵入盛期(平年:6月第1半旬)の成虫密度:100株当たり25頭 産卵盛期(平年:6月第2半旬)の卵塊密度:100株当たり80個

- イネドロオウムシのチアメキサムに対する薬剤感受性低下個体群が確認されているが、同個体群でジアミド系に対する感受性は低下しておらず、効果も認められている。

※普及に移す技術 第97号「イネドロオウムシのチアメキサム感受性低下個体群に対するジアミド系殺虫成分の感受性」<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20200/735193.pdf>

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 適切な防護装備の着用を徹底しましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう
- ⑤ 農薬容器のラベルをよく読みましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー7月上旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:5月 30 日～6月4日

天候予報:仙台管区气象台6月6日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
斑点落葉病	ー	多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、新梢葉における発生地点率及び発病葉率は平年より高かった。(/+)
- (2)高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
モモシンクイガ	ー	やや多

予報の根拠

- (1)前年の発生量が平年よりやや多かったことから、越冬量は平年よりやや多いと推測される。(/+)
- (2)20～25℃の気温が成虫の産卵に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/+)

病害虫名	発生時期	発生量
キンモンホソガ	ー	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、新梢葉における発生地点率は平年よりやや高く、被害葉率は平年並だった。(/±～+)
- (2)20～25℃の気温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/+)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒しして降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・スピードスプレーヤの防除では低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は、病害虫の発生源になりやすいことから補完散布するとともに、不要な徒長枝を整理する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・DMI剤(FRACコード:3)、QoI剤(FRACコード:11)及びSDHI剤(FRACコード:7)並びにこれらの混合剤は、耐性菌対策のため、それぞれ年2回以内の使用とする。
- ・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

- ・果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意する。

(2)斑点落葉病

- ・発病葉率の高いほ場が確認されたことから、薬剤防除の際は、発病した徒長枝や不要な徒長枝を取り除き、十分量の薬液を散布ムラのないように散布する。
- ・本病は感染から発病までの潜伏期間が数日から7日程度と短く、最低気温が20℃以上で3日以上降雨が続くと急増する傾向がある。今後の発生に注意するとともに、曇雨天が続く場合でも晴れ間をぬって防除を実施するなど、適期防除に努める。

(3)モモシンクイガ

- ・防除適期は産卵盛期(平年:6月第4半旬)であり、産卵場所となりやすい「がくあ部(果頂部)」を観察して産卵期を見極める。なお、フェロモントラップ調査では、例年より早い5月中旬に成虫の誘殺が確認されていることから、ほ場をよく観察し防除適期の把握に努める。
- ・多発ほ場では、殺虫剤散布の補助手段として交信かく乱剤の使用も効果的である。
- ・被害果(ほ場周辺のウメ、モモ、スモモ等も含む)は、次世代の発生源となるので、幼虫脱出前に取り除き、5日以上水漬けする等して適切に処分する。

(4)キンモンホソガ

- ・6月以降に発生する成虫は新梢葉を主体に産卵するため、新梢葉での発生状況に注意する。
- ・徒長枝に多く寄生するため、不要な徒長枝は整理する。

(5)果樹カメムシ類

- ・今回(5月30日～6月4日)のフェロモントラップ調査において、誘殺数が前回調査(5月中旬)を上回った地点があった。特に、防除情報第2号で紹介した2地点の調査結果を過去5か年平均と比較すると、チャバネアオカメムシ12.0頭(過去5か年平均8.1頭)、クサギカメムシ1.5頭(過去5か年平均0.3頭)と多かった(図1)。

(フェロモントラップ調査結果を参照:<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/trap.html>)

- ・摘果作業時にほ場内を注意深く観察し、被害果実を見つけ次第摘果するとともに、ほ場への飛来数が目立つ場合は、カメムシ類に登録のある農薬を散布する。
- ・防除情報第2号(5月27日発表)を参照。

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/45756/r06bojono02.pdf>

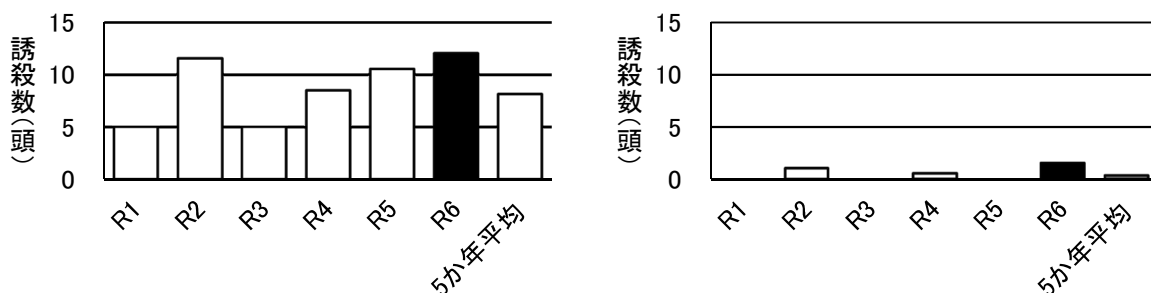


図1 フェロモントラップ調査における果樹カメムシ越冬成虫誘殺数

(左:チャバネアオカメムシ、右:クサギカメムシ)

(病害虫防除所調査、5か年平均:R1～R5の平均値、地点数:2、前回調査以降6月4日までの誘殺数)

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 適切な防護装置の着用を徹底しましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう
- ⑤ 農薬容器のラベルをよく読みましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

令和6年度 発生予察情報	発生予報第3号 ーなしー	令和6年6月10日発行 宮城県病害虫防除所
-----------------	---------------------	--------------------------

ー7月上旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:5月30日～6月4日

天候予報:仙台管区气象台6月6日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
黒星病	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、新梢における発病葉は確認されなかったが、果そうにおける発生地点率及び発病葉率は平年並であった。(/ー～±)
- (2)気温 20℃前後で多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ー～±)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び寄生新梢率は平年並であった。(/±)
- (2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、前倒して降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・スピードスプレーヤによる防除は低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は発生源になりやすいことから補完散布する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>
- ・果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意する。

(2)黒星病

- ・本病は感染から発病までの潜伏期間が14～30日であり、まとまった降雨の後しばらく経過してから、急に症状が現れることがある。今後の発生に注意するとともに、防除間隔があかないよう定期的な予防防除に努める。

- ・本県では現在まで DMI 剤 (FRAC コード:3)、QoI 剤 (FRAC コード:11)、SDHI 剤 (FRAC コード:7) の耐性菌は確認されていないが、今後もこれらの混合剤を含めた使用は、それぞれ年2回以内とし、FRAC コードが同じ薬剤の連用を避ける。
- ・発病部位は伝染源となるので、見つけ次第除去し、ほ場外へ持ち出して土中に埋めるなど適切に処分する。
- ・不要な徒長枝を取り除き、薬剤が樹木全体に行き渡るように管理する。

(3)アブラムシ類

- ・発生が多いほ場では、他の害虫の発生状況も考慮して薬剤を選定して防除する。
- ・薬剤防除を行う場合は、枝の先端まで薬剤が行き渡るように散布する。

(4)果樹カメムシ類

- ・今回(5月30日～6月4日)のフェロモントラップ調査において、誘殺数が前回調査(5月中旬)を上回った地点があった。特に、防除情報第2号で紹介した2地点の調査結果を過去5か年平均と比較すると、チャバネアオカメムシ 12.0 頭(過去5か年平均 8.1 頭)、クサギカメムシ 1.5 頭(過去5か年平均 0.3 頭)と多かった(図1)。

(フェロモントラップ調査結果を参照:<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/trap.html>)

- ・摘果作業時にはほ場内を注意深く観察し、被害果実を見つければ摘果するとともに、ほ場への飛来数が目立つ場合は、カメムシ類に登録のある農薬を散布する。
- ・防除情報第2号(5月27日発表)を参照。

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/45756/r06bojono02.pdf>

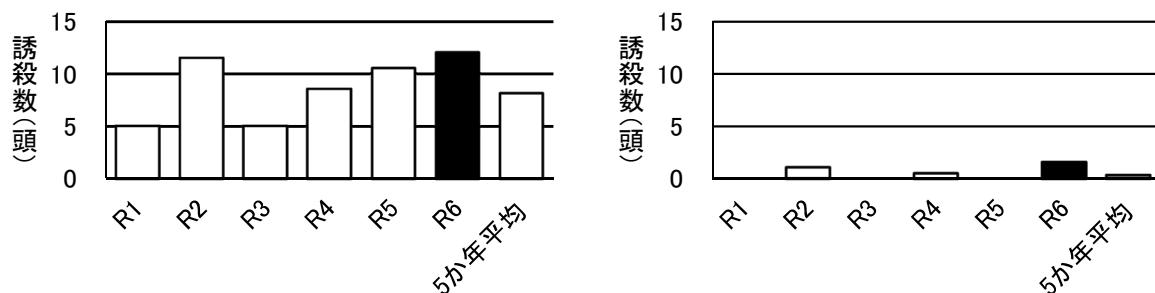


図1 フェロモントラップ調査における果樹カメムシ越冬成虫誘殺数

(左:チャバネアオカメムシ、右:クサギカメムシ)

(病虫害防除所調査、5か年平均:R1～R5の平均値、地点数:2、前回調査以降6月4日までの誘殺数)

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 適切な防護装置の着用を徹底しましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう
- ⑤ 農薬容器のラベルをよく読みましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

—7月上旬までの発生予報と防除のポイント—

巡回調査:5月30日、6月3～4日

天候予報:仙台管区気象台6月6日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	—	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ ±)
- (2) 湿度 45～85%が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
褐斑病	—	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ ±)
- (2) 高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ +)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
炭疽病	—	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率と発病葉率は平年並であった。(/ ±)
- (2) 多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
べと病	—	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率と発病葉率は平年並であった。(/ ±)
- (2) 多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
アザミウマ類	—	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ ±)
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ +)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
コナジラミ類	—	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率と発病葉率は平年並であった。(/ ±)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ +)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	—	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ ±)
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ +)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・発生はほ場ごとに差があるため、ほ場の見回り等による早期発見に努める。
- ・薬剤防除は、罹病葉・罹病果を取り除き、ほ場内の伝染源を減らしてから、葉裏にも十分かかるよう散布する。
- ・ウイルス病の発病株は、見つけ次第抜き取り施設外へ搬出し適切に処分する。
- ・同一薬剤を多用すると抵抗性が発達する恐れがあるので、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/nyaku/user/top/miyagi>

(2) うどんこ病、褐斑病、炭疽病、べと病

- ・多発してからの防除は困難なので、予防防除に重点をおいた薬剤散布を実施する。
- ・肥料切れや着果過多、樹勢の低下は発病を助長するため、適切な栽培管理を行う。
- ・多湿や昼夜の温度差で結露量が増えると発病が助長されるため、過繁茂とならないよう老化した葉など不要な葉を取り除き、施設内の換気を十分にいき、風通しを良くする。

(3) アザミウマ類、コナジラミ類、ハダニ類

- ・ほ場内や施設周辺に雑草があると伝染源となるので、除草を行う。また、発生源からの飛来を防止するため、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm目合い)を設置する。
- ・栽培終了後、株元の切断等で株を枯死させると同時に開口部を閉鎖し温度を高めることで、成幼虫を死滅させ周辺への分散を防ぐことが出来る。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 適切な防護装置の着用を徹底しましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう
- ⑤ 農薬容器のラベルをよく読みましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム